

【今庄宿PJ】今庄宿プロジェクトとして具体的に取る事(案)

《今庄宿の現状・特性》

①資源等

- そば、造り酒屋
- 自然環境、雪
- 鉄道、羽根曾踊り、イベント等
- 昭和会館

②来訪者について

- ・ 高齢夫婦、若い家族、絵を描く人、写真を撮る人、山に登る人が多い。
- ・ カフェができて、いろんな人の動きが変わった。お酒1本を買うのに大阪や滋賀から来る人もいる。
- ・ マニアックでディープな世界を求める人が多い。水戸天狗党、奥の細道、山本周五郎も人気。
- ・ 高速IC、JRの3駅、アクセスは良い。

③旧旅籠 若狭屋・「coffee&bread 木ノ芽」

- ・ 旧旅籠 若狭屋の改修を始めてから約1,400人、カフェがオープンして約4ヶ月で、約2,500人が来訪
- ・ 福井市などの県内のほか、近畿・中部からの来訪者も多い。
- ・ 「このままで良い、飾らないほうが良い」という意見が多い。

①取り組みの方向性について

《具体的な取り組みや進め方に関する意見》

生活の視点

私たち住民が快適に暮らせるだけでなく、のどかな自然や歴史に育まれた今庄宿ならではのまちづくりを目指したい。将来の子どもたちを想い、地域で支え合う暮らしや風習、固有の歴史や文化、宿場町ならではの様々な出会いを大切にしながら、暮らしの豊かさを実感できるまちづくりを進めていきたい。

- ・ 歴史認識、現にあるポテンシャルに付加価値を付ける
- ・ 宿が整備された江戸時代をメインにし、歴史の繋がりが見えるまちづくり

観光の視点

今庄宿の魅力は、何となくノスタルジーを感じる場所であり、観光バスで多くの観光客が訪れるような観光地ではなく、ひっそりと、質の高い誘客を目指したい。変に触りすぎず、着飾らず、今ある資源の魅力さをさらに高めることで、人のぬくもりが感じられるまちづくりを進めていきたい。

今庄宿プロジェクト

- 住民が幸せに暮らす
- 住民を減らさない
- 住む人1人でも多くを増やす(特にこどもいる世帯)
- 活動する人・関わる人を増やす
- 訪れる人(特に今庄宿ファン)を増やす

②具体的な取り組みについて

歴史観を大切に

【目標1】町並みを守る

今庄宿にふさわしい建物のあり方、守るべきルールの検討

- ルール・マナーの検討
- ガイドラインの検討

ふくい伝統的民家の指定

- 調査
- 所有者への働き掛け

空き家を壊さない・活用する

- 所有者への働き掛け
- 具体的な活用
 - ・ 住宅(モデルハウス、仕事場)
 - ・ ゲストハウス
 - ・ 店舗(そば屋、カフェ、飲食店、飲み屋、多機能店舗)
 - ・ 体験施設(そば、吊るし柿等)
 - ・ 歴史・文化活動の拠点
 - ・ ギャラリー等

空き地の活用

- 畑や広場、共同駐車場等としての活用

【目標2】センス良く町並みを整える

道路の高質化整備

- 北国街道
- 路地(旧町界の路地、寺町境界、生活空間)

看板の整備

- 案内サイン、道標
- 旧町名や路地名
- 歴史的な場所等

既存資源の活用

- 水路の整備
- 古道の整備
- 昭和会館の改修

電線類地中化等の整備

- ・ 一定区間のみ
- ・ 町並みに合う色に変更
- ・ 敷地背後に移設

JR今庄駅周辺の整備

- 駅舎・駅広のデザイン整備
- 撮り鉄のポイントづくり
- D51の移設
- エフェエ跡地の活用(ギャラリー、観光案内所、土産・特産品販売所等)
- 駅舎の耐震化検討

おもてなし空間づくり

- トイレの整備、ベンチの製作設置

【目標5】効果的に情報発信する

住民への情報発信

- 仲間を増やす
- おもてなし勉強会の開催

住みたい人への情報発信

- 今庄の魅力
- 季節感のある風流な暮らし方の提案
- 古民家で暮らすかっこ良さの発信等

来訪者への情報発信

- ガイドブックの作成(お店・人・路地、お気に入りポイント等)

新企画の催し

- 公德園フリーマーケットやものづくりワークショップなど、若い世代の呼び込み
- お店をやりたい人探し・連携
- 新商品の開発

【目標3】歴史・文化を次世代に伝える

歴史・文化の情報収集・研究・PR等の活動

- 関連資料の収集・整理
- 古地図の作成、歳時記・年中行事の一覧表
- 羽根曾踊りの伝承
- 来訪者を交えた勉強会等の開催

歴史・文化活動拠点の整備

- 展示、学習、体感等の場としての活用

【目標4】戦略的に来訪者を呼び込む

四季折々の体感プログラムの実践

- 酒・そば・雪・アートなどの資源を最大限に活用
- 酒蔵巡り+そばの食事など既存店舗の連携
- 体験・滞在、少人数を基本にターゲットを絞る

歴史・文化・町並みの体感プログラム

- 路地巡り、町並み散策、建物見学、座禅体験等

今庄のファンをつくる、リピーターを増やす

- 住民のおもてなし、多様な交流機会づくり
- 組織化、定期的な情報発信